

第2回新総合事業に関する調査 経過報告

地域包括ケアシステムの一翼を担うといわれている新総合事業（介護予防・日常生活支援総合事業）についてひと・まち社は3年間の継続調査を実施しており、現在は第2回調査の回収・集計をすすめています。第2回調査は自治体調査と社会福祉協議会を対象とし、特徴のある取り組みや国のガイドラインのモデル自治体となっている2区4市（墨田区、練馬区、立川市、武蔵野市、調布市、稲城市）を重点地域として、シルバー人材センターやNPO法人等を対象に加えしました。調査は東京・生活者ネットワークの協力を得て2016年12月より開始し、自治体調査は現在、北区を除く22区26市から、社会福祉協議会は19区24市から回答が得られています。

自治体調査では、一般高齢者施策による介護予防事業等が増えることを想定し、第1回調査に引き続き第2回調査も、東京都が取りまとめている「区市町村における高齢者福祉施策一覧表」を参考にしました。

地域づくりや地域資源の発掘の要となる生活支援コーディネーターは、行政職員が兼務していたり社会福祉協議会に委託し複数設置していたりと、自治体の規模や状況に合わせて取り組ん

でいました。

今後、集計・分析を進め、第2回調査の報告書は5月完成を予定しています。報告書が完成いたしましたら、通信でも改めて皆様にご報告いたします。

◆新総合事業に関する調査

自治体名	第2回調査				自治体名	第2回調査				
	自治体調査	社協	シルバー人材	NPO等		自治体調査	社協	シルバー人材	NPO等	
区部	千代田区	○	未			八王子市	○	○		
	中央区	○	○			立川市	○	○	○	
	港区	○	未			武蔵野市	○	○	○	2
	新宿区	○	○			三鷹市	○	○		
	文京区	○	○			青梅市	○	○		
	台東区	○	○			府中市	○	○		
	墨田区	○	○	○	1	昭島市	○	○		
	江東区	○	○			調布市	○	○	○	1
	品川区	○	○			町田市	○	○		
	目黒区	○	○			小金井市	○	○		
	大田区	○	○			小平市	○	○		
	世田谷区	○	○			日野市	○	○		
	渋谷区	○	○			東村山市	○	○		
	中野区	○	○			国分寺市	○	未		
	杉並区	○	○			国立市	○	未		
	豊島区	○	○			福生市	○	○		
	北区	未	未			狛江市	○	○		
	荒川区	○	○			東大和市	○	○		
	板橋区	○	○			清瀬市	○	○		
	練馬区	○	○	○		東久留米市	○	○		
	足立区	○	未			武蔵村山市	○	○		
	葛飾区	○	○			多摩市	○	○		
	江戸川区	○	○			稲城市	○	○	未	2
区部合計		22	19	2	1	羽村市	○	○		
						あきる野市	○	○		
						西東京市	○	○		
						市部合計	26	24	3	5
						東京計	48	43	5	6

※2017.3.3現在

市民シンクタンクひと・まち社 第16回総会のお知らせ

ひと・まち社は2013年度から認定NPO取得に向け準備をすすめ、2014年に仮認定を受け2016年10月21日付で正式に認定交付を受けました。皆様のご支援とご協力のたまものと、改めて感謝申し上げます。これからは毎年「3000円以上の寄附者100人以上」の絶対基準をクリアする必要があります。皆様にはこれまでと同様にひと・まち社へのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2016年度は、新総合事業に関する調査の第1回調査報告会を10月に開催し、第2回調査につなげました。調査への助成金の取得がかなわなかったため、皆様のご寄付を充てての活動となりました。第三者評

価については評価の受託件数は目標に届きませんでした。社会的養護関係施設第三者評価機関として、初めて児童養護施設の評価を受託することができました。

ひと・まち社の評価者として活動を希望する方を受け付けていますので、関心のある方は連絡をお願いします。

総会では認定NPOになったことで広く寄附が募れるよう情報発信を充実させることと新しい事業の可能性について、皆様から広くご意見をいただきたいと思ひます。第16回総会を下記日程で開催します。

皆様のご参加をお待ち申し上げます。

特定非営利活動法人 市民シンクタンクひと・まち社 第16回総会

日時：2017年3月24日（金） 17:00～18:30

場所：ASKビル6階 市民シンクタンクひと・まち社

編集後記：東日本大震災で津波に流された三陸地方を植樹活動で訪れた時、海岸沿いにそびえたつ防潮堤の高さに驚いた。閉鎖された空間となつてしまい、その向こうが海とは到底思えず、これでのいのだろうかとか複雑な気持ちになった。人間の技術や力には限りがあると思ひ知つたはずなのに、海とともに生活していた地元の方々の想いや歴史は、生かされているのだろうか。トップダウンで進められてきたことは残念に思う。(k)